

# 単P紹介

うちの学校のこんなトコ紹介します!

## 地域とともに輝け

### 「東っ子」

### 南区「鮎田東小学校」

鮎田東小は、熊本市南西部に位置し、北に金峰山、西に有明海が広がっています。また、本校の東側には、熊本市総合屋内プール「アクアドームくまもと」があります。熊本市新港への幹線道路が走り、最近では熊本市都市計画区域に指定され、その影響を受け住宅用地の造成が行われ、転居者も多く、世帯数・人口ともに増加傾向にあります。

そんな本校は、児童数四百六十六名、創立百二十四年という歴史ある小学校です。卒業生の中には演歌歌手として活躍されている石川さゆりさんもおられます。

ます。石川さゆりさんに寄贈していただいた「グランドピアノ」「柱時計」「ライラックの木」は、本校の宝物と言えるでしょう。また、本校のシンボルとして百二十四年の歴史と伝統を感じさせる「鮎田東の松」は、臥龍のように幹枝を広げています。

そんな中、私たち保護者は本校の教育目標である「夢をもち笑顔あふれる東っ子の育成」「一人一人が輝くため」の目標達成に力を入れ、先生・保護者・地域の方々に協力してPTA活動に取り組んでいます。

毎月一回の防犯パトロール、地区ごとの危険箇所見廻り、春夏秋冬の地区巡視、登下校通学路の見守りなど、子どもたちの安全と育成のため、地域の方々に日々温かく見守って頂いています。

また、二年前から開催されている熊本城マラソン大会にボランティアで参加をしています。子どもたちの熊本城マラソンコース清掃活動が評価されて、昨年「小さな親切」実行賞を受賞しました。

大会当日は、早朝よりPTAから総勢五十名が、ボランティア警備として参加しています。小学校周辺の治道は熱い声援・応援で埋めつくされ、大事な地域交流の機会になっています。

そして本校では、毎年創立記念を祝う「東っ子まつり」が行われます。去る十二月二日、各学年が日頃の総合学習の体験を通じて実感した思いや願い、歌や合奏を披露しました。



東っ子まつり

子どもたちのドキドキしながら練習成果を披露する姿に観客席からは、笑いあり感動ありの楽しい時間を過ごしました。

このように、頑張る学校・子どもたちを、私たち保護者は地域と一体となって、これからも盛り上げていきたいと思っています。

(鮎田東小学校 立岡 清美)

## 藤園中学校紹介

### 中央区「藤園中学校」

藤園中学校は同じ敷地内に、城東小学校が隣接しているとても珍しい学校です。

城東小学校、慶徳小学校、五福小学校の三校区からなり、熊本城のお膝元に位置しています。教室から熊本城を間近に見ることができ、とても贅沢なロケーションです。今年度は十数年ぶりに1年生が4クラスとなり学校にも賑やかな声が増えています。

藤園中では特別支援教育に力を入れています。「まなびの教室」や「聞こえの教室」という特別教室があり、他校の生徒も時々登校してきます。特別支援学級も2クラスあります。様々な個性の生徒たちとの触れ合いは藤園中の生徒たちの心の成長に繋がっています。

生徒会執行部を中心としたボランティア活動として、毎月第二土曜日に花畑公園の清掃活動を行います。



生徒会では毎朝どこかのクラスが挨拶運動を担当する「ハロープロジェクト」を実施しています。小学校と隣接する関係上、たくさんの小学生にも挨拶をしています。黄色い帽子の1年生の中には元気の良すぎる男子中学生の挨拶が怖いのか、うつむいて足早に過ぎ去る児童もいますがこれも大切な交流だと感じています。

私たち保護者もPTA活動を通して心の交流と成長ができるようになりたいと思っています。

(藤園中学校 松山 香織)



## 心肺蘇生法講習会

本年度のプール開放実施校は小学校55校、中学校1校。開放に向けて保護者監視員のための心肺蘇生を含む講習会が各単P、市教委、区P、市Pにより開催され、計8816人が受講しました。



## 児童生徒の「健康～食育について考えよう～」配布について

熊本市PTA協議会健康安全委員会では、子どもたちの健やかな心と身体の成長を育てるため「健康～食育について考えよう～」というテーマのもと、冊子を作成し本年2月に配布いたしました。

この冊子を活用しながら、各単P・学校で同テーマについて大いに考えてください。なお、冊子は熊本市PTA協議会のホームページからもダウンロードできます。



## 天井の宇宙



今から16年前、長男を妊娠しているときに、当時の職場の上司がこんなことを話してくれました。「子どもに与えるおもちゃの基本は、積み木と丸いボールと絵本。特に絵本は、その子の生き方に大きく影響する」。なるほどと思っただけは、子どもがまだ言葉もわからないころから、絵本を見せたり読み聞かせをしたりしたものです。それは、小学校に入学した後も随分長い間続いていたように覚えていました。

幼い頃の読み聞かせや即興話の習慣が彼らの生き方にどんな影響を与えたのか、もちろんまだその答えは出ていません。しかし、私のまいた種は彼らの宇宙となり、成長と共に心の中で無限に広がりを続け、いつか生き方の方向性を示してくれることと信じています。

絵本を開く時間のないときは、夜、布団の中で、即興で作った物語を聞かせていました。主人公は必ず我が家の息子たち。あるときは、空を飛んで宇宙を旅するスペースクルストーリー。またあるときは、なんでもない日常

今でも天井の模様を見ると、話を聴くときの子どもたちの生き生きとした表情が思い出され、私の心に温かい感情が流れ込んできます。そして、そんな時、あれは正解だったと思わずにはいられないのです。

(熊本市PTA協議会副会長 緒方 玲子)

## 編集後記

本会報では、市P研究大会や各区の研修会などPTAの学びに関する活動を報告しました。私も様々な研修会に出席し、貴重な経験を積んでこられた講師の方々のお話から、我が子の教育に限らず、自らの今後の生き方に対しても多くのヒントをいただきました。こうした意味においても、PTA活動って社会貢献というよりも自己研鑽なんだなあと改めて感じるところです。最後に、各記事を担当された編集委員の方々、編集会議等での確かな御指導をくださった方々、誠にありがとうございました。

(広報委員長 楠本誠(二藤園中))